

令和7年度 学校評価・学校関係者評価書

学校名	天満東小学校
-----	--------

1 学校運営の目標・方針

「元気に明るくともに学ぶ子」
自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる東っ子の育成

2 本年度の重点目標

1. 学びの 楽しさを知り、積極的に 自分の考えを持ち 学習する子(学ぶ意欲の育成)
2. 自分から進んであいさつができ、人との対話を楽しむ子(コミュニケーション能力の育成)
3. きまりを守り、人となかよくする子(公共心と人権尊重の精神)
4. 心身の健康を保ち、元気に活動する子(心身の自己管理)

3 学校自己評価結果 A:十分達成している(そう思う) B:おおむね達成している。(ややそう思う)
C:どちらかという達成されていない。(あまりそう思わない。) D:ほとんど達成されていない。(そうは思わない。)

4 総合的な学校関係者評価

・目標・方針、重点目標を教職員が共有し、「自分を好きになる ほかの人も好きになる 一歩踏み出せ東っ子」という合言葉を意識した教育活動を行っており、挨拶や仲間を思いやる気持ちや育む学校運営を行っていると感じている。
・授業参観や各行事において、教職員間の連携をとりながらきめ細やかな対応を行っている様子が見られた。教職員一人一人が資質向上に努めながら、チームワークよく学校全体が生き生きとして教育活動が行われており、保護者は安心して子どもを委ねられる学校だと感じている。
・特に今年度は、児童が積極的に自分の考えを安心して表現でき、その願いや思いを実現させることで児童の主体性を育てていくという取組を行っていると感じた。初の開催となった「東っ子大発表会」では、さまざまな方法や支援を行い、学校運営協議会を中心にPTAや地域とも連携しながら、6年生の願いを実現させることに取り組んでいた。また、「東っ子大発表会」では、自分の特技を十分に披露し、それを全校生や保護者があたかも見守る姿が印象的だった。このような取組が実現したことは、児童にとって今後の成長に良い影響を与えられたと感じた。
・達成状況の評価が高い結果から、児童一人ひとりが自分の好きなことや努力したいことに取り組み、自分も友だちも大切にすることを学んでいることが見える。コロナ禍以降教育活動や内容が大きく変化している。今後も前向きに取り組んでいる学校や教職員に感謝しながら、学校運営協議会としてもできることを協力していきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学校運営	・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて、学校だよりでは、学校経営方針や毎月の行事予定、児童の学校生活の様子や教育に関する所感等を掲載し、自治会長、民生委員児童委員、町議会議員(校役)の皆さん、地域の方々には、郵送や児童を通じて配布、地域回覧などの方法で、保護者へは学校だよりのデジタル配信にて情報開示した。また、学年だより、保健だより、PTAだより、コミスク通信なども効果的に配信している。学校ホームページでは日々の教育活動について定期的に情報を発信し、家庭や地域との連携に努めている。	・学校の活動状況は、「スクリーン」配信以外にも回覧版での学校だよりやホームページで確認でき、学校の様子がよく分かる。 ・「スクリーン」アプリによる配信で、プリントをなくすことも必要な状況がすぐに確認できるのは、保護者としてもありがたい。また、行事についてや学級閉鎖などの連絡がきめ細やかで以前より増えたことで、学校の状況がよく理解できた。 ・地域から信頼される学校となるためには、発信とともに地域や保護者から児童の日常的な姿を把握しておくことが大切だと思う。 ・各行事において、保護者の事情等を十分配慮しながら行っていると感じている。保護者が学校の様子が見られるように、子どもたちの様子が見られる場面を増やしていただいたのもありがたい。 ・「東っ子大発表会」の日程変更については、事前確認と地域との調整が必要で大変だったように思う。準備と計画を十分に行い、児童と保護者も巻き込んで東小にしかない行事の基盤ができた。 ・学校行事が2学期に多く重なり、児童も教職員も負担が大きと感じるので、来年度はゆとりのある計画にしてもよいのではないかと。 ・インフルエンザの流行で学級閉鎖が発生した中でも、行事の内容や日程を柔軟に変更し実施していただいたことに感謝している。 ・縦割り班活動の取組を継続し、学年を問わずに児童間のコミュニケーションがとれていることが、成果として表れている。 ・「コミスク座談会」では、6年生の児童が学校でやりたいたことをわかりやすく、しかもその実現に必要な過程や方法も考えながらプレゼンする姿に圧倒された。 ・PTAと連携し、プール掃除や運動会のグラウンド整備、会場準備などを行うことは、一緒に学校行事を作り上げている感じが見られてよかった。 ・学校のフェスに飾など、補修が必要だとみられる箇所がある。PTAと連携し、作業などを行うことができればと思う。
	・学校行事の時期や内容は適切である。	B	児童が自ら考え、企画・実行し、協力して、自分たちがやりたいたい願う学校行事になることを第一の目標にあげて実践してきた。児童は、自分たちの力だけではできないことに関しては、PTAや学校運営協議会の方々に協力依頼してつくり上げた。その結果、「全力でやり切った」「みんなできつくり上げた」という感動を味わうことができたのではないかと考えた。自然学校、修学旅行、運動会、音楽会、授業参観、オープンスクール等は、児童の発達段階に応じて行えたが、2学期に行事が集中してしまっ。東っ子では中学校行事と重なり、日程変更をすることとなった。2学期の行事が多いため日程調整を図っていきたい。	・校内整備や後片付けでは、PTAから保護者に声をかけていただき、児童、職員、保護者が力を合わせて行うことができた。施設・設備の安全点検は、教職員が毎月、校舎内外の設備等の点検を行っている。運動場のタイヤ周辺の土の古らしい釘がなくなり、プラコの座面の左右にある鎖が摩耗して使用できなくなったり、セアコケグモが大量に出現するなどしたが、職員作業でできる限り修繕するなどして対応し、児童の安全確保に努めている。
	・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また定期的な施設・設備の点検をしている。	A	毎月、月末大掃除の日を設け清掃活動に児童・教職員で取り組んでいる。プール掃除や運動会前のグラウンド整備や後片付けでは、PTAから保護者に声をかけていただき、児童、職員、保護者が力を合わせて行うことができた。施設・設備の安全点検は、教職員が毎月、校舎内外の設備等の点検を行っている。運動場のタイヤ周辺の土の古らしい釘がなくなり、プラコの座面の左右にある鎖が摩耗して使用できなくなったり、セアコケグモが大量に出現するなどしたが、職員作業でできる限り修繕するなどして対応し、児童の安全確保に努めている。	・校内支援教室(ハートフルルーム)では、不登校や特別な支援が必要な児童に対し、学習や生活の困難を克服するためのサポートを行っている。利用する児童にとって安全で安心な居場所であること、個に合わせた学びの場であること、社会的な自立を支援することを目標として運営している。また、学級経営の充実を図り、本校独自の長期休業明けイベントや年2回の園児とPTAイベント、教師相談日の設定等の取り組みにより、いじめの未然防止、早期発見に努めている。いじめが起った後の対応については、支援の必要が児童の情報を全職員で共有し、学校組織としての対応に努めている。今後も支援方法を検討する際には、専門機関とも連携し、迅速な対応に努めていく。
	・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。	A	校内支援教室(ハートフルルーム)では、不登校や特別な支援が必要な児童に対し、学習や生活の困難を克服するためのサポートを行っている。利用する児童にとって安全で安心な居場所であること、個に合わせた学びの場であること、社会的な自立を支援することを目標として運営している。また、学級経営の充実を図り、本校独自の長期休業明けイベントや年2回の園児とPTAイベント、教師相談日の設定等の取り組みにより、いじめの未然防止、早期発見に努めている。いじめが起った後の対応については、支援の必要が児童の情報を全職員で共有し、学校組織としての対応に努めている。今後も支援方法を検討する際には、専門機関とも連携し、迅速な対応に努めていく。	・校内支援教室(ハートフルルーム)を中心に不登校や特別な支援が必要な児童への組織的に運用されていることで、サポートが必要な子どもが安心して過ごせる居場所となり、登校や学習活動への参加への抵抗感が下がることがよい。 ・いじめや生徒指導の問題に対して、いじめを積極的に認知し組織的に早期発見・早期対応することで、今後の指導や見守りを行い学校全体で向き合う姿勢が、防止に大きな成果をもたらすとする。 ・登下校では、時折危険だと感じる行動をしている児童の姿が見られる。また登校班でトラブルがあったときは、親や地域を巻き込んで複雑になることがある。学校の取組を十分理解し、事実を確認し話し合いによって解決できる経験を児童が積んでいくことが大切なこと。地域・保護者も自覚していくことが必要である。
	・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全指導や学校事故防止に努めている。	A	年度当初に危機管理マニュアルを確認し、非常時の教職員の役割や動きを確認している。避難訓練(火災、不審者、地震)は年間3回実施している。今年度、不審者対応訓練において実施時間と侵入場所を変えて行うことで、児童はもちろんだが、教職員も新しい気づきが生まれ、新たな対策を取り入れることにつながった。年度当初には警察の方等による交通安全教室を実施し、全児童を対象に、自転車の乗り方や安全な登下校などについて学習した。4月には児童委員と地区担当教職員の引率のもと、110番の家を確認を実施。また、教員による登下校指導を効果的に実施する等、登下校時の児童の安全確保に努めているが、登下校時(起きる問題は依然と多い。今後も安全な登下校、交通事故防止や、危険箇所への対応、不審者対策等について、家庭、地域と連携し継続して取り組んでいく。	・一人一人が期末による学びの振り返りの活用が、児童の主体性の向上に大きく貢献している。タブレットを活用した学習が当たり前のように行われ、児童が自分で調べ資料をまとめるなど、様々な場面で活用できるようになっている。 ・授業参観で、6年生が将来の夢について発表していた。多くの保護者や友だちの前で目指す夢や職業だけでなく、今の自分にできることを具体的に調べ、夢を実現したいと強い意志をもって発表したことがすごいと感じた。また、別の学年でも、児童の発表をもとに教師が発問しながら互いの考えを交流することで、児童が生き生きとした姿を見ながら学習が深まっていた。児童の主体性を育み活かすような学習は、自分が子どもだった時と比べて全然違うので、感心する。 ・毎年大きな教育の変化の波が押し寄せる中、教職員は対応すること自体が大変であると思う。教職員が授業方法の改善や研修を必要に応じて実施していることに感謝している。いじめや人権課題などの学習では、教師の考え方や行動によるところが大きく、児童はその姿から学んでいる。これからも指導について研鑽を積んでほしい。 ・ルーブリック評価は評価基準が明確にされていることで、今年や来年度が共通理解できるのではないかと感じた。児童が自分のやるべき目標を見定め、自分の学習的振る舞いを確認することは簡単ではないと思うが、これらも取り組んでほしい。
教育課程	・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業を心がけている。	A	今年度は、研究推進委員会を中心に、児童の考える力を伸ばす発問を考える研修を実施したり、各ブロックに分かれて一つの教材を研究する研修を実施したり、児童の基礎的・基幹的な知識・技能を養身に身につけられるよう授業改善の研修に取り組んだ。また、一人一人研究授業を実施し、事前や事後研修を通して、教職員全体の授業力向上に努めた。今年度は、一人一人が期末を発達段階に応じて効果的に活用しながら、児童にとって学ぶことが楽しいと思える授業づくりを行っていきたい。	・今年度の全国学力学習状況調査の生活アンケートの結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。
	・評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	A	学校評価のあり方、学習評価の基本構造、観点別学習状況の評価について教職員研修を行い、共通理解を深めた。ルーブリック評価を用いて授業者と児童の評価基準を明確にし、児童の学びの意欲を高め、質の高い教育活動を目指す。評価ははじめに、今日の学びの目標を立て、授業の最後には学習内容を振り返る活動を取り入れ、自分自身で頑張ったこと、わかったこと、もっと知りたいことを評価する取り組みを行った。評価を通して、児童の学力向上につながる指導の工夫を今後も継続していく。	・今年度の全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。
	・児童に家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	A	今年度の全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。	・今年度の全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。
	・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	体験的な学習や問題解決的な学習として、修学旅行や自然学校のみならず、日本の伝統楽器等や体験、地球科学の旅(世界の楽器体験)、ふるさと先輩事業、地域の伝統行事を学ぼう、環境体験(天満池でのアサザの植樹)、サツマイモ植え・収穫体験等、児童の発達段階に応じた活動を行うことができた。体験的な学習や問題解決的な学習には、知識がより具体的に実感的なものとなり、学習をより深めることにつながった。また、他者との関わり方や社会性を学び、豊かな人間性を培うことに役立っている。今後も、体験的な学習、問題解決的な学習の充実に取り組んでいく。	・今年度の全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。
	・道徳の授業を大切にし、内容の充実にも努めている。	A	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、いじめ問題、情報モラル、「明日に生きる」を活用した防災学習等、適切な教材を投入し授業を実施することができた。授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を把握することに努めている。また、評価の充実のため、児童の心の変化の読み取り方の改善にも取り組んだ。今後も研修を継続し、授業の充実にも取り組んでいく必要がある。	・今年度の全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。
・読書活動を充実させている。	A	図書ボランティアや町立図書館とも連携し、図書館の管理・運営を行っている。常に整理整頓された図書室は、児童にとって癒しの場となっている。図書委員会が行う読書週間の企画やお勧めの本の紹介は、児童に読みたいという気持ちのきっかけになっている。また、毎月1回「家読の日」を設定し、家庭で読書に取り組む活動は、家庭での読書習慣の啓発につながっている。適時スクリーンに配信されている図書だよりは、家読での児童や保護者から寄せられた感想を載せており、児童にとって楽しみなお便りとなっている。今後も、家庭と連携を図りながら読書活動の充実にも努めていく。	・今年度の全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童の平日における家庭学習時間が全国的な平均と比べ特に少なかったことを受け、家庭学習の定着を図るための対処法を検討した。家庭での学習意欲を高めるために、自分の力で解決できない宿題を児童にも併せてできないことを含意し取り組んだ。また、長期休業中には、タブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指した。今後も児童の学びに応じた課題の設定、声かけの仕方を工夫しながら家庭との連携を密にし、時間をかけて対応していくことが必要である。	

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	A	特別の教科「道徳」を中心に各教科、行事等、教育活動全体を通して、命の大切さや人と人の豊かなつながり、人権尊重の心を育てているよう心がけている。オーブンスクールでは「小さな命のドア・命語り隊」の助産師さんに「命の授業」を実施し、5・6年生児童、保護者、地域の方々とともに命について考えるよい機会となった。また、情報化社会の特性を理解し、SNSやネットから自分や他者を守るために適切な判断力と行動を身に付けることを目的とした情報モラル学習を全学年で実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人権課題も増える中で、問題を自分ごととしてとらえ、深く考えるようになってほしい。 ・体験活動や自然学校等で、学校の中では学べない内容を経験できていると思います。 ・自然学校は計画や準備が大変だとは思いますが、児童にとっては一生の思い出になる活動であるので、今後も続けてほしい。 ・天満大池でのアサザ保護活動等、稲美町独自の活動もあり、大人になっても稲美町が好きで、稲美町を大切に守ろうとする大人になってもらえたらと思う。そのために、体験活動は重要。次年度以降も続けてほしい。 ・定期的な避難訓練が実施されており、その重要性や「自分の命は自分で守る」という意識づけは充実されている。
	・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	環境体験学習として、3年生は天満大池でのアサザ保護活動に参加。また、5年生は6月にハチ高原にて4日5日の自然学校を実施し、大きな学びのある5日間となった。環境体験活動、自然学校ともに自然の中の様々な体験活動を通して、自ら考え判断して行動する力を養い、問題解決能力を高めることにつながった。来年度も児童の発達段階に応じた学習内容を工夫し、普段の学校生活では体験できない自然の根源的な姿に触れながら五感を通じた学びが充実するように努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災から30年が過ぎ、震災の経験や防災の意識の風化が懸念される中で、授業時間外での訓練を実施したことはよいことだと思う。児童も訓練が計画的に実施されていることで、自分の命を守るための行動について、自分ごとのように考えることができた。落ち着いて行動できたことも、日ごろの取組の賜物である。 ・避難訓練後、「テレビで地震速報が流れると、家族で避難について話し合うことができるようになった」とある家庭から聞いた。学校の訓練にとまらず、家庭の中でも防災について考えることは、社会全体にとっても大切だと思う。 ・最近は無常気象で、暑さへの対策やゲリラ豪雨、地震など何が起るかわからない状況なので、あらゆるケースを想定した訓練を実施してほしい。
	・計画的に避難訓練等を実施している。	A	火災や地震が起きたとき、また、不審者が学校内に侵入してきたときに児童の命を守る方法について、教職員が具体的な行動を共通認識したあと、5月に火災、9月に不審者対応、1月に地震の避難訓練を実施した。1月に実施した避難訓練では、今までに想定したことのない清掃の時間に訓練を行った。児童は今の場所から自分で考えて安全な場所へ避難することができた。Jアラートや稲美町防災無線による訓練放送が流れた瞬間には、全児童が一瞬で地震対策の基本である「Drop/J Cover/ Hold on」の行動ができていた。自分の命は自分で守ることを意識し、自分で考えて命を守るように行動できる子どもも育成に今後も努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練後、「テレビで地震速報が流れると、家族で避難について話し合うことができるようになった」とある家庭から聞いた。学校の訓練にとまらず、家庭の中でも防災について考えることは、社会全体にとっても大切だと思う。 ・最近は無常気象で、暑さへの対策やゲリラ豪雨、地震など何が起るかわからない状況なので、あらゆるケースを想定した訓練を実施してほしい。 ・小学生のうちから外国語を学ぶことで、発音にも慣れ親しむとともに異文化への理解を深め、視野が広がることで多様な価値観を受け入れやすくなる。グローバル社会で活躍できるチャンスが拡大するので、今後も積極的に取り組んでほしい。
	・外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	A	一人1台端末を最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、外国語活動(3,4年)、外国語科(5,6年)ともに外国語専科、ALT、担任が連携して授業を進めている。中学年では、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」を中心に外国語に慣れ親しみ、高学年では、「読むこと」「書くこと」を追加でコミュニケーションを図る基礎となる読解・筆記力の育成に努めている。児童は外国語でコミュニケーションを行う目的、場面、状況設定等、目的意識をもって学習に取り組めた。今後も外国語学習に興味関心をもち、学びが深まるよう、指導の工夫を行っていく。	
努力目標	・学校は授業や体験学習を通して、自ら学ぶ意欲を持って、学ぼうとする児童を育てようとしている。	A	学校教育目標を「自ら学ぶ意欲と他を思いやる優しい心をもち未来をたくましく生きる東っ子の育成」と掲げ、毎時間の授業のはじめにその時間の目標を提示し、終わりに振り返りを行うことにより、目標が達成できたかどうか各自で確認している。特に体験学習では、「自主・協力・達成」を目標に掲げ、実行委員を中心に自分たちで学習を作り上げている。児童が授業や体験学習を通じて、「わかった」「できた」という学びの充実を味わうことができる授業づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を明示し、振り返りすることはとても大切であるが、理解できていない児童は、その旨を伝えることができるのであろうか。それが言える環境がとても大切で、不可欠である。 ・あいさつ運動のおかげで自らあいさつできる児童が増えていると思う。初めはあいさつの回数が目的になっていると聞いたが、段階を経て、その都度課題と学びを見つけて自ら取組を続けている。授業参観では、児童からあいさつをしにくれたり話しかけてくれたりして、その習慣が少しずつ身につけていると感じた。小学生でも子どもだま習慣は一生の宝となり、気持ちの通じ合うあいさつができるようになると思う。 ・地域でも、確実に「こんにちは」「さようなら」などのあいさつできる児童が増えている。あいさつから始まる会話は、地域の方の励みにもなっている。高学年の様子を見て、低学年もあいさつができるようになってほしいのは、縦割り班活動の成果だと思う。大人からも気持ちのこもったあいさつをしていきたい。
	・学校は、学校や家庭地域で自分から進んであいさつできる児童を育てようとしている。	A	「めざせあいさつ日本一」を合言葉に、自ら進んであいさつできる児童の育成に努めている。また、児童会スローガン「自分がすき、友達がすき、学校がすき」を達成するために、あいさつを通じて楽しい学校にしたいと目標を決め1年間通じて取り組んでいる。その結果、学校内はもちろん、登下校時においても気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきている。今後は学校外でも、自ら進んであいさつができる児童の育成に、家庭・地域と連携し取り組んでいきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会のスローガン「自分が好き・友達が好き・学校が好き」を達成している児童も多いと思う。新しい行事である「東っ子大好き集会」は、みんなに自分を認めてもらい、ワクワクする行事であり、学校が好きになることにもつながると感じた。 ・児童の考えを尊重する教育スタイルのおかげで、積極的に自分の思いを相手に伝えられることができている。特に友達と仲良くし大切に思っていると感じている。中には、コミュニケーションが苦手な児童もいると思うが、日々の取組によって大きな問題が発生していないと思う。
	・学校は、授業や体験学習を通して、自ら学ぶ意欲を持って、学ぼうとする児童を育てようとしている。	A	学校生活全体で話し合い活動を進めている。授業では発問を重視し、自分で考える時間とグループで自分の考えを交流する時間、そして学級や学年を超えて意見を交流したり、考えを伝えあったりする時間を設けるよう工夫している。ほかの人の考えを聞き、自分の考えと違うところや同じところを見分け、さらに考えを深めていく授業を継続していくことで、多様性という意味を理解し、自分も友達も大切にできる人になりつつあるように感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・給食は、稲美町でしかできない独自の食育となっている。自分の家庭でも、学校給食の話を兄弟でしている。コストが上がる中で成長期に必要な栄養を考慮しながら食材や安全な給食の質を保つことは難しいことだが、保護者としても非常に助かっている。 ・伝える力と聞か力は、どちらか片方では身につかない。双方をバランスよく身につける必要がある。
	・学校は、体育・保健学習や食育を通して、自分の体を大切にしようとする心を持って育ちたい。	A	地産地消を重視した学校給食を通して、積極的に食育を実践している。特色ある農作物や果物が提供されるときは、栄養教諭が作成したビデオを見て、その作り方や生産者の思い等を学んでいる。本校にはランクルームがあり、児童の興味・関心を引き出す掲示物がある。また、栄養教諭と担任による食育の授業、健康委員会による給食クイズ、生産者さんへのお礼の手紙等、学校校全体で食育に取り組んでいる。体育では授業だけでなく、スポーツテスト、運動会などの学校行事を通して、児童が興味をもって取り組み、体向上につながるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の力は高まっている。あとは恥ずかしさもあるだろうが、それに負けずに大きくゆっくりとした声で話せるように、これからもその機会を確保してほしい。
・学校は、話したり書いたりすることを通して、自分の思いを相手にしっかりと伝えられる子を育てようとしている。	A	各教科の学習において、児童が発表ノートを活用し自分の思いや意見を交流したり、みんなの前で自分のプレゼンで大型提示装置に映し出し説明をしたりする機会を設定している。また、自分の思いを相手に伝えることに対して不安を抱かないよう、学級経営にも力を注いできた。自分の意見を伝える力、そしてほかの人の話を最後までしっかりと聞ける力をつけるための取組を今後も継続していく。		
自己評価における特記事項 <ul style="list-style-type: none"> ・児童と「ミスク座談会」等で意見を交流したり授業参観で学校の様子を見たりする中で、学校の運営方法が毎年改善されていると感じる。特に今年度は、教職員間の雰囲気明るくなり、チームワークがよくなって学校の雰囲気が変わったと感じた。その結果、児童が楽しく学校生活を送っていることにつながっていると思う。これからも、元気で明るく、他者への思いやりをもった児童の育成を期待する。 ・「スクリレ」を活用して、雅楽鑑賞会やふるさと先輩事業等、参観日以外の保護者への案内が増えたことで学校内の様子がうかがい知れたことがとてもよい。 ・一人一台タブレットを早くから導入している園々では、教育現場でその取組を振り返り、方針転換がなされているところもある。日本も同様に、児童を中心とした教育活動となるように、正しい活用について検討を行ってほしい。 ・学校行事の日程調整は、猛暑やインフルエンザの流行などにより再調整を余儀なくされており、大変苦労されていると思う。学校行事の時期だけ学校自己評価がBとなっているが、より丁寧に対応していることとする教職員の思いがその結果につながっていると思う。 ・PTAの形態が大きく変わった。限られた時間の中で、保護者同士の協力体制を築きながらみごとに活動を成し遂げられたと思う。 ・4月から自転車の交通ルールが改定される。田舎であるゆえに、左側通行や並列走行などこれまであまり守られていないルールが多くある。中学生になれば自転車での通学となるため、小学生のうちから正しい知識とルール遵守の指導をお願いしたい。 				項目以外での来年度の課題や具体的改善方策 <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、児童がわかる喜びを味わえる授業をめざし、算数科を中心とした研究推進を行っていく。児童が学ぶ喜びや楽しさを味わえるような授業となるように、教職員の授業力向上に一層努める。また、今年度末に一人一台端末の更新を行う。それを生かしてこれまでの取組の成果を引き継ぎ、主体性を育む授業づくりに進んでいく。 ・学校行事については、児童も教職員も余裕をもって活動に取り組めるように、様々な角度から検討し、実施していくように努める。 ・縦割り班活動に取り組む3目になる。幼小連携や異学年のコミュニケーションを育む取組として成果を上げてきたが、「東フェス」などの新しい取組が生まれたことで、これまで以上に6年生や担任にかかる負担が非常に大きいことが課題となっている。その在り方について再度検討し、児童の考えや願いを受け入れ実現する取組を次年度も行っていきたい。